

# 水野柳太郎先生年譜・著作目録

## 年 譜

- 一九三〇年（昭和五）  
三月 大阪市に生れる。
- 一九三六年（昭和一一）  
四月 大阪市天王寺区天王寺第五尋常高等小学校（現五条小学校）入学。
- 一九三九年（昭和一四）  
二月 大阪府泉北郡浜寺町浜寺昭和尋常小学校に転校。
- 一九四〇年（昭和一五）  
五月 大阪市東区船場尋常小学校に転校。
- 一九四二年（昭和一七）  
三月 大阪市東区船場国民学校初等科修了。
- 四月 大阪府立北野中学校入学。
- 一九四六年（昭和二一）  
三月 大阪府立北野中学校第四学年修了。
- 一九四九年（昭和二四）  
四月 第八高等学校文科甲類入学。
- 三月 第八高等学校文科甲類卒業。
- 四月 名古屋大学文学部史学科入学。
- 一九五二年（昭和二七）  
三月 名古屋大学文学部史学科卒業。国史学専修学  
士試験合格 文学士。
- 四月 名古屋大学大学院（旧制）入学。研究題目 古  
代寺院史の研究。
- 同 名城大学付属高等学校講師（非常勤 五三年三月  
まで）。
- 同 名古屋歴史学会大会研究発表「初期寺院縁起の成  
立」。
- 一九五三年（昭和二八）  
九月 四日市商業高等学校講師（非常勤 五四年三月  
まで）。

一九五四年（昭和二九）

四月 南山学園南山高等・中学校講師（非常勤 五五年三月まで）。

同 名古屋歴史学会大会研究発表「叛乱と官人」。

一九五五年（昭和三〇）

四月 南山学園南山高等・中学校教諭。

一九五八年（昭和三三）

一〇月 大阪歴史学会一〇周年記念大会発表「出挙の起源とその変遷」。

一九六〇年（昭和三五）

六月 大坂歴史学会大会発表「続日本紀の材料について―東大寺の食封をめぐる―」。

一九六一年（昭和三六）

六月 稲沢市・中部日本新聞社共催 尾張国分寺発掘調査委員（六三年三月まで）。

一九六二年（昭和三七）

三月 名古屋大学大学院退学。

同 南山学園南山高等・中学校退職。

四月 鈴鹿工業高等専門学校講師。一般科目 歴史担当。

一九六四年（昭和三九）

四月 鈴鹿工業高等専門学校助教授。一般科目 歴史担当。

一九六五年（昭和四〇）

一二月 稲沢市史研究会委員（企画・編修・執筆 六八年三月まで）。全一卷。

一九六七年（昭和四二）

四月 同朋大学文学部講師（非常勤 一般科目 歴史学・専門科目 日本美術史担当 七五年三月まで）。

一九七二年（昭和四七）

四月 名古屋大学文学部講師（併任 専門科目 日本古代史講義担当 一九七三年三月まで）。

同 名古屋市文化財保護委員会調査委員（八二年三月まで）。

八月 名古屋市博物館建設協議会専門委員（七三年六月まで）。

一九七三年（昭和四八）

四月 愛知県立大学文学部講師（非常勤 専門科目 日本史担当 八三年三月まで）。

同 愛知県文化財保護委員会専門委員（七六年三月ま

で)。

六月 名古屋博物館建設協議会展示企画委員(七四年五月まで)。

十一月 名古屋博物館建設協議会資料調査委員(七四年五月まで)。

一九七四年(昭和四九)

四月 愛知県主催 津島神社古文書緊急調査委員(七四年五月まで)。

十一月 日本史研究会大会発表「不改常典をめぐる試論―大王と天皇―」。

一九七五年(昭和五〇)

四月 椋山女子学園大学文学部講師(非常勤 一般科目 日本史・専門科目 日本美術史担当 八三年三月まで)。

一九七六年(昭和五一)

四月 愛知県文化財保護審議会委員。

同 新修稲沢市史編修委員会委員(主任企画・編修・執筆 九一年三月まで)。全三二五巻。

一九七七年(昭和五二)

四月 信州大学人文学部講師(併任 専門科目 日本古

代史特殊講義担当 七八年三月まで)。

同 愛知県主催 妙興寺歴史資料調査委員(七九年三月まで)。

一九七九年(昭和五四)

一〇月 聖徳太子研究会学術大会発表「聖徳太子古伝の一例」。

一九八〇年(昭和五五)

四月 愛知県主催 大樹寺歴史資料主任調査委員(八二年三月まで)。

一九八一年(昭和五六)

七月 稲沢市荻須記念館建設検討委員(八二年三月まで)。

八月 稲沢市荻須記念館設計競技審査委員(八二年三月まで)。

一九八二年(昭和五七)

三月 鈴鹿工業高等専門学校退職。

四月 奈良大学文学部助教授。専門科目 日本古代史特殊講義・日本史講読・日本史演習担当。

同 愛知大学文学部講師(非常勤 専門科目 日本古代史特殊講義担当 八三年三月まで)。

同 愛知県主催 西明寺歴史資料主任調査委員（八四年三月まで）。

一月 稲沢市公益功勞表彰（文化振興）。

一九八三年（昭和五八）

四月 奈良大学文学部教授。専門科目 史学概論・日本史概説・日本史概論・日本史特殊講義・日本史講読・日本史演習・史学研究法・史料実習担当。

一九八四年（昭和五九）

四月 愛知県教育委員会主催 東観音寺歴史資料主任調査委員（八六年三月まで）。

一九八五年（昭和六〇）

四月 条里制研究会評議員。

一九八六年（昭和六一）

三月 条里制研究会大会発表「方格地割と文献」。

四月 続日本紀研究会代表委員（八七年三月まで）。

同 愛知県教育委員会主催 称名寺歴史資料調査委員

（八九年三月まで）。

一九八九年（平成一）

三月 研究会「日本学・東洋学文献情報処理の総合的研究」発表「電子計算機による西海道戸籍の再検討」。

（奈良大学社会学部教授今泉重夫共同）。

一九九〇年（平成二）

七月 稲沢市博物館建設準備委員（九八年三月まで）。

一九九三年（平成五）

四月 奈良大学大学院文学研究科修士課程 文化財史学専攻 文化財史料論特殊講義・日本史演習担当。

一九九四年（平成六）

一月 名古屋大学博士（歴史学）。学位請求論文「日本古代の寺院と史料」。

一九九五年（平成七）

四月 奈良大学大学院文学研究科博士課程 文化財史料学専攻。前期課程 文化財史料論特殊講義・日本史演習、後期課程 日本史特別研究担当。

一九九六年（平成八）

十一月 愛知県教育委員会表彰（文化財保存）。

二〇〇〇年（平成一二）

三月 奈良大学退職。

四月 奈良大学名誉教授。

同 奈良大学文学部講師（非常勤 専門科目 世界遺産史学特殊講義・日本史特殊講義担当）。

同 宝塚造形芸術大学講師（非常勤 一般科目 日本文化史担当）。

一二月 愛知県知事表彰（文化功労者）。

### 著作目録

#### ○ 著 書

『日本古代の寺院と史料』 一九九三年二月 吉川弘文館

#### ○ 論 文

「統紀記事脱漏の一例」 一九五四年五月 『統日本紀研究』 第一巻第五号

「叛乱と官人」 一九五四年八月 『名古屋歴史学会会報』 第二号

「大安寺の食封と出挙稲（一）施入年代」 一九五五年三月 『統日本紀研究』 第二巻第二号

「大安寺の食封と出挙稲（二）運営の状態」 一九五五年七月 『統日本紀研究』 第二巻第七号

「大安寺の食封と出挙稲（三）両者の関係」 一九五五年一二月 『統日本紀研究』 第二巻第一号

「大安寺伽藍縁起并流記資財帳について」 一九五七年五月

「南都仏教」 第三号

「出挙の起源とその変遷」 一九五九年五月 『ヒストリア』 第二四号

「統日本紀編纂の材料について―東大寺の食封をめぐる」

一九六〇年一二月 『ヒストリア』 第二八号

「百濟大寺と大安寺―堅田修氏の再論を讀んで―」 一九六一年一二月 『日本上古史研究』 第五巻第一号

「日本書紀仏教伝来年代の成立について」 一九六四年六月 『統日本紀研究』 第一二二号

「大宝令下の郡稲」 一九六四年一二月 『ヒストリア』 第三八号

「日本書紀仏教伝来記事と道慈―田村圓澄氏の批判に接して―」 一九六五年六月 『統日本紀研究』 第一二七号

「寺院の墾田地所有について」 一九六八年一二月 『ヒストリア』 第五一号

「法隆寺伽藍縁起并流記資財帳の一考察（上）―土地関係記事について―」 一九六九年二月 『統日本紀研究』 第一四三号

「唐令の継受に関する賞書」 一九六九年三月 『古代学』  
第一五卷第四号

「法隆寺伽藍縁起并流記資財帳の一考察(下)―土地関係  
記事について―」 一九六九年一〇月 『続日本紀研  
究』第一四六・一四七合併号

「電子計算機による西海道戸籍受田額の再検討」(鈴鹿工  
業高等専門学校助教授今泉重夫共著) 一九七二年九  
月 『鈴鹿工業高等専門学校紀要』六

「不改常典」をめぐる試論―大王と天皇― 一九七五年  
三月 『日本史研究』第一五〇・一五一合併号

「面積計算法と方格地割」 一九七五年七月 『名古屋大  
学日本史論集』上巻(吉川弘文館)

「古代用水をめぐる面積と労働量の計算」 一九七八年五  
月 『日本古代の社会と経済』下巻(吉川弘文館)

「佛本伝来記をめぐる」 一九七八年五月 『南都仏教』  
第四〇号

「尾張国衙の周辺と中世文化財」 一九七八年五月 『年  
報中世史研究』三

「色川三中管見」 一九七九年八月 『茨城県史研究』四

二

「聖徳太子古伝の一例」 一九八〇年二月 『聖徳太子  
研究』一四

「道照伝考」 一九八三年二月 『奈良史学』第一号  
「日本書紀の白猪史関係記事」 一九八五年二月 『奈  
良大学紀要』第一四号

「方格地割と文献」 一九八六年三月 『条里制研究』第  
二号

「日本書紀と元興寺縁起」 一九八七年二月 『東アジ  
アと日本』歴史編(吉川弘文館)

「白猪史の改姓と『日本書紀』」 一九八八年一月 『古  
代史論集』上(塙書房)

「日本靈異記上巻第五話と日本書紀」 一九九一年二月  
『奈良史学』第九号

「紫微中台と坤宮官」 一九九二年二月 『奈良史学』  
第一〇号

「皇子命宮について」 一九九四年二月 『続日本紀の  
時代』(塙書房)

「奈良時代の太上天皇と天皇」 一九九五年二月 『奈  
良史学』第一三号

「行基の大仏勸進記事をめぐる」 『続日本紀』卷十五天

平十五年十月乙酉条」 一九九六年三月 『続日本

紀研究』第三百号記念特集

○ 地方史

『愛知県農地史』前編 第一章 農地の形成 第一節 令制下の農地 一九五七年十一月 愛知県農地開拓課

『伊勢灣をめぐる文化史』美術編 一九六一年七月 中部日本新聞社

『稲沢市史』（編修・執筆） 前編 第一章 概観・後編二

尾張国分寺調査報告 六 尾張国分寺の沿革 後編三

稲沢市の文化財（佐々木隆美共著） 一九六八年一

一月 稲沢市役所

『岐阜県史』通史編 古代 第二章 古代の交通 第一三

章 初期荘園と飛騨国衙領 一九七二年三月 岐阜県

『春日井市史』資料編 四 密蔵院（佐々木隆美共著） 一

一九七三年十一月 春日井市

『半田市史』文化財篇 五 彫刻 一九七七年一〇月 半田

市

『新修稲沢市史』研究編 二 美術工芸 文化財から見た稲

沢 一九七九年十一月 新修稲沢市史編修委員会事務局

局

『新修稲沢市史』研究編 三 尾張国解文（編修・執筆）

古写本の性格 一九八〇年一二月 新修稲沢市史編修

委員会事務局

『新修稲沢市史』研究編 四 地誌上（編修） 一九八二

年十一月 新修稲沢市史編修委員会事務局

『常滑市誌』文化財編 第二章 美術・工芸（二） 一九

八三年三月 常滑市役所

『新修稲沢市史』研究編 七 古代・中世（編修） 一九

八三年十一月 新修稲沢市史編修委員会事務局

『新修稲沢市史』研究編 五 地誌下（編修） 一九八八

年一〇月 新修稲沢市史編修委員会事務局

『新修稲沢市史』本文編 上（小島広次共編・執筆） 第三

章 古代 四 尾張国府と古代文化 一九八九年三月

新修稲沢市史編修委員会事務局

○ 教科書

『歴史学概説』（編修・執筆） 上巻 第I編 歴史学の概

要 第一章 歴史学の内容 第三章 歴史学の研究法

第II編 歴史の起源 第一章 人間の形成 第二章 文

明の發生 下巻 第1編 日本史の展開 第一章 国家の  
形成ほか 一九七四年四月 中教出版株式会社

○ 文献目録

「出挙関係研究文献目録」 一九六四年二月 『続日本  
紀研究』第一二四号

「名古屋市蓬左文庫国書分類目録」(網野善彦・三鬼清一  
郎・八木毅共編) 一九七六年三月 名古屋市教育委  
員会

○ 小論

「質問箱 『天皇』という称号は、いつごろ成立したので  
しょうか。」 一九六九年六月 『岐阜史学』第五六号

「東海のあけぼの」 「飛騨・東海歴史略年表」 『文学の旅』  
9 飛騨・東海 一九七一年二月 千趣会

「飛鳥、奈良の人々と仏像」 『日本靈異記』に記された  
仏像の靈威― 『Farjapanese』 日本の美と文化』第  
二巻 飛鳥と万葉 一九八三年九月 講談社

○ 書評

「一九五六年の歴史学界―回顧と展望― 日本史 古代」

一九五七年五月 『史学雑誌』第六六編第五号

「一九六五年の歴史学界―回顧と展望― 日本史 古代」

一九六六年五月 『史学雑誌』第七五編第五号

井上薫著『奈良朝仏教史の研究』 一九六七年三月 『ヒ  
ストリア』第四七号

「一九七六年の歴史学界―回顧と展望― 日本史 古代」

一九七七年五月 『史学雑誌』第八六編第五号

「一九八五年の歴史学界―回顧と展望― 日本史 古代」

一九八六年五月 『史学雑誌』第九五編第五号

笹山晴生著『奈良の都―その光と影―』 一九九二年一  
月 『史学雑誌』第一〇一編第一号

○ 辞典執筆

『国史大辞典』

吉川弘文館

『世界大百科事典』

平凡社

『大百科事典』

平凡社

『平安時代事典』

東京堂

『愛知百科事典』

中日新聞社